

教師ノート

日付	2013年 1月13日
単元	マタイの福音書・1
テーマ	みことばで誘惑に勝つ
タイトル	荒野での誘惑
テキスト	マタイ4:1～11
参照箇所	マルコ 1:12-13、ルカ 4:1-13、出エジプト 34:28、申命記 6:13、16、8:3、詩篇 91:11-12
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ4:4
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

イエスさまは、洗礼を受けた後、荒野に行き40日も断食をされました。みなさんは、断食で腹ペコなとき、目の前に好物を出されたら、どうするでしょうか？

□ポイント1 イエスさまは荒野で40日間断食をされました(1-4節)

イエスさまは、荒野で断食をされました。断食というのは、食べ物を食べないで、深く集中し、その苦みに耐えながら、神さまに近づいてお祈りすることです。荒野というのは、人が住めないような、荒れ果てた土地です。ゴツゴツした岩と砂に覆われ、雑草さえもあまり育たず、時には野獣がうろつく、寂しくて恐ろしい土地です。イエスさまは、そこで40日間も断食してお祈りをされたのです。イエスさまが、「公生涯」(イエスさまが救い主としての働きをスタートされてから十字架にかかれるまでの約3年半の期間)の始めになされたのは、40日間の断食のお祈りだったのです。

40日の断食が終わったとき、イエスさまは空腹を感じられました。そこへ、悪魔が近づいてきて言いました。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」悪魔は、イエスさまに罪を犯させて、救い主の活動開始を阻止しようと必死で誘惑したのです。しかし、イエスさまは『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある』とお答えになりました。これは申命記8:3のみことばです。イエスさまは、自分の力で悪魔と戦うのではなく、「～と書いてある」と言って、聖書のみことばだけで悪魔の誘惑に勝ったのです。

☞「悪魔の試みを受けるため、聖霊に導かれて荒野に上って行かれた(1節)」とはどういう意味？…神さまが私たちを悪の誘惑に導くことはありません(ヤコブ1:13)。罪のないイエスさまは、私たち人間と同じように、40日の空腹の苦しみと悪魔の誘惑を体験してくださいました。救い主として、人間の受ける誘惑をご自身も受けることによって、真に私たちの立場に立ってくださるため、神さまは、イエスさまに試みを受ける機会を備えてくださったのです(ヘブル2:17～18、4:14～16)。

□ポイント2 サタンはさらにイエスさまを誘惑しました(5-7節)

悪魔はイエスさまを神殿のてっぺんに連れていき、今度はみことばを引用して誘惑してきました。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる。』と書いてありますから。」しかし、イエスさまは『あなたの神である主を試みてはならない。』とも書いてある」と、再びみことばで答え、悪魔の誘惑に勝利されました。イエスさまの信仰は、悪魔の悪知恵よりも、何枚も上手(うわて)なのです。

□ポイント3 サタンはイエスさまから離れて行きました(8-11節)

サタンは、まだあきらめず、さらに必死でイエスさまを誘惑しました。今度は、イエスさまを非常に高い山の上のてっぺんに連れて行き、この世のすべての国と豊かさを見せました。そして「もし私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう」と言いました。しかし、イエスさまは「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。」と3度目もみことばでお答えになり、誘惑を跳ね返しました。イエスさまの完全勝利です。コテンパンに敗北した悪魔は、(もう勝てないとあきらめたのでしょうか)イエスさまから離れて行きました。

■詳しい解説(教師は理解しておきましょう)

◇第1の誘惑:悪魔は「救い主なのだから、石をパンに変えて、困っている人々に食べさせれば良いではないか」と投げかけている。一見、善良な提案のようだが、これはイエスに「神を信頼しない罪」を犯させ、救い主として失格させようという陰湿な誘惑であった。モーセとともに荒野をさまよったイスラエルの民は、神を信じ切れず、食べ物を要求してつぶやいた。彼らのすべきことは、食物を求めることではなく、神を信頼することであった。同様に、もしイエスが石をパンに変えて、自分と民衆の空腹を満たしてしまうなら、パンだけを求め、神への信頼を忘れてしまうことになる。このような巧妙な誘惑に対して、イエスは「パンも大事だが、最も大切なのは神を信頼する信仰である」ということを表すのに最適なみことばを引用して、悪魔の誘惑を退けたのである。

◇第2の誘惑:悪魔はイエスに「ここから飛び降りても、神が御使いを用いてあなたを守ってください。その奇蹟を見せて、あなたが救い主であることを人々が信じるようにしてはどうですか」と提案している。しかしこれも、悪魔がイエスに「神を信頼しない罪」を犯させようとする罠である。悪魔が悪用した詩91:11~12は神を信頼することの大切さを歌っている。しかし、もしイエスが神殿の頂から飛び降りるなら、神を自分の思い通りに動かし、奇蹟を行なうよう要求することになる。信頼とは、その全く逆で、神がしてくださることに全てをゆだねることである。そこでイエスは「私たちが神に何かをさせようと試みてはいけない」というみ言葉で、悪魔の間違いを指摘したのである。

◇第3の誘惑:2度までも完敗した悪魔は、今度は、巧妙な誘惑というより、強引かつ露骨な交渉に打って出たと言える。これに対してイエスは「引き下がれ、サタン」と付け入る隙のない拒絶で誘惑を一蹴した。全世界とその主権は、悪魔のものではなく、すべて初めから神のもの。礼拝されるべきは、神だけである。

□結論 イエスさまは、サタンの誘惑に、みことばで完全勝利されました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. どんな誘惑にもみことばで勝利していこう。誘惑と戦う武器であるみことばをたくさん蓄えよう！
悪魔は、イエスさまが断食で弱っているときをねらって誘惑しました。サタンはあなたの弱点をねらって、巧みに誘惑の罠をしかけ、あなたをイエスさまから引き離そうとします。でも、大丈夫！怖がる必要はありません。イエスさまがなされたように、みことばで対抗すれば、必ず勝てるのです！人間は誰でも誘惑に負けやすいです。でも、イエスさまのみことばは、いつも完全勝利します！ みことばで誘惑に勝とう！そのためには、普段から聖書を読み、暗唱聖句をして、みことばを心に蓄えておくことが大切です。
2. イエスさまのように熱心に祈り、みこころに従う人になろう！
イエスさまは、大切な働きスタートに、まず荒野でお祈りをされました。イエスさまでも、神さまのみこころに従っていくために、お祈りは欠かせなかったのです。あなたは、イエスさまのように、熱心にお祈りをしていますか？神さまのみこころに従っていくために、また何かを始める前に、お祈りをしよう。平安・勇気・力・喜び・知恵など、必要なものはすべて与えられるよ！